

1. 科目名 (単位数)	異文化理解 (2 単位)	3. 科目番号	EDEN3331
2. 授業担当教員	越野 香子		EDEN3131
4. 授業形態	講義、ペアワーク、グループ学習、グループ発表	5. 開講学期	春期
6. 履修条件・他科目との関係	中・高等学校英語教員免許選択必修		
7. 講義概要	国際社会や世界との関わりの中で、他者と効果的なコミュニケーションを行う力を育成するために、コミュニケーションの手段としての外国語やその背景にある文化の多様性及び異文化コミュニケーションの現状と課題について学んでいく。また、さまざまな英語圏の文化を通じて、英語による表現力への理解を深め、中学校及び高等学校における外国語科の授業に必要な知見を身に付けていく。 本講義における学習事項としては、1. 異文化コミュニケーションの現状・課題と基礎概念、2. 異文化交流の体験過程と文化多様性の意義、3. 英語文化圏の歴史・社会・文化、以上3点を適宜扱うものとする。		
8. 学習目標	1. 世界の文化の多様性及び異文化コミュニケーションの現状と課題を理解している。 2. 多様な文化的背景を持った人々との交流を通して、文化の多様性及び異文化交流の意義について体験的に理解している。 3. 英語が使われている国や地域の歴史、社会、文化について基本的な内容を理解している。		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	毎授業、テーマについての調査や議論の感想について課題が与えられる。授業で得た知識や理解を強化する目的のものとする。		
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】 イングリッド・ピラー著『異文化コミュニケーションを問い直す』創元社、2014。 【参考書】 講義で適宜紹介する。		
11. 成績評価の規準と評定の方法	○成績評価の規準 1. 世界の文化の多様性及び異文化コミュニケーションの現状と課題を理解できるようになったか。 2. 多様な文化的背景を持った人々との交流を通して、文化の多様性及び異文化交流の意義について体験的に理解できるようになったか。 3. 英語が使われている国や地域の歴史、社会、文化について基本的な内容を理解できるようになったか。 ○評定の方法 以下の点を総合して評価する 1. 授業への参加態度 総合点の 30% 2. 試験 (小テスト・期末テスト・口頭発表試験 等) 総合点の 30% 3. 提出課題 (レポート等) 総合点の 40% なお、本学規定により、3/4 以上の出席が確認できない場合は、単位の修得は基本的に認められない。		
12. 受講生へのメッセージ	1. シラバスを熟読し、講義の学習目標、成績評価等についてよく把握しておくこと。 2. iPhone, Smartphone, 携帯電話, その他通信機能のあるノートパソコンやタブレットの電源は切り、かばんの中にしまうこと。 3. 本学規定により、3/4 (4 回) 以上欠席すると単位の修得が認められないので留意しておくこと (遅延については、遅延証明書を当日又は次回講義までに担当教員に提出すること。遅延の累計回数が多い場合、遅延を認めない場合もあるため、注意すること)。 4. 成績総合評価の内「授業への参加態度」は、授業での積極的参加 (発言等) も含むため、分からないことは積極的に質問し、意見を述べることを勧める。 5. 不正行為への対応等について、本学は、「東京福祉大学・短期大学部 研究活動における不正行為への対応等に関する規程」を平成 26 年 12 月 4 日に制定しています。詳しくは、本学ホームページの大学紹介・研究活動のところを参照してください。文部科学省のガイドラインでは、「学生に対する研究倫理教育」を行うことが要請されているので、皆さんは、大学で自分の学習成果をレポートにしたり発表したりしていくうえでの倫理、つまり、守らなければならない事があります。不正行為としては、 <u>1. 捏造(ねつぞう)</u> 、 <u>2. 改ざん</u> 、 <u>3. 盗用</u> があります。不正行為については、適宜、処置がなされるので、これらについて十分に注意をして、勉学に臨んでください。		
13. オフィスアワー	授業時に通知する		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	第 1 章 授業概要	事前学習	シラバスを確認し、教科書や扱うテーマ内容について把握しておく。教科書 pp. 17~21 を読み、日常的に経験している自身の異文化体験について振り返っておく。
		事後学習	異文化コミュニケーションの現状と課題について振り返っておく。
第 2 回	第 2 章 異文化コミュニケーションへのアプローチ	事前学習	教科書 pp. 22~36 を読み、本章の目的について把握しておく。
		事後学習	既習内容を復習する。実際に体験した異文化交流についてノートに記録し課題と意義について自分なりに考えをまとめておく。
第 3 回	第 3 章 異文化コミュニケーションの系図	事前学習	教科書 pp. 37~58 を読み、本章の目的について把握しておく。
		事後学習	既習内容を復習し、本章についての理解を深めておく。

第4回	第4章 言語と文化	事前学習	教科書 pp. 59～83 を読み、本章の目的について把握しておく。
		事後学習	既習内容を復習する。言語とコミュニケーションについて自分なりに考えをまとめておく。
第5回	第5章 国家と文化	事前学習	教科書 pp. 84～108 を読み、本章の目的について把握しておく。
		事後学習	既習内容を復習し、国家と文化の関係について確認しておく。
第6回	第6章 職場での異文化コミュニケーション	事前学習	教科書 pp. 109～135 を読み、本章の目的について把握しておく。
		事後学習	既習内容を復習し、多国籍企業とコミュニケーションについて整理しておく。
第7回	第7章 販売のための異文化コミュニケーション	事前学習	教科書 pp. 136～154 を読み、本章の目的について把握しておく。
		事後学習	既習内容を復習し、民族的ステレオタイプを売るということは、どのようなことなのか確認しておく。
第8回	第8章 異文化間ロマンス	事前学習	教科書 pp. 155～175 を読み、本章の目的について把握しておく。
		事後学習	既習内容を復習し、異文化ロマンスに伴う力関係や人種の役割と機能について理解を深めておく。
第9回	第8章 異文化間ロマンス	事前学習	教科書 pp. 155～175 を読み、本章の目的について把握しておく。
		事後学習	既習内容を復習し、異文化ロマンスに伴う力関係や人種の役割と機能について理解を深めておく。
第10回	第9章 異文化コミュニケーションと排除	事前学習	教科書 pp. 176～196 を読み、本章の目的について把握しておく。
		事後学習	既習内容を復習する。実際に体験した異文化交流体験から異文化摩擦や自身の多様なアイデンティティについて考えをまとめておく。
第11回	第9章 異文化コミュニケーションと排除	事前学習	教科書 pp. 176～196 を読み、本章の目的について把握しておく。
		事後学習	既習内容を復習する。異文化コミュニケーションにおける排除とは何か考えをまとめておく。
第12回	第10章 マルチリンガルな世界における異文化コミュニケーション	事前学習	教科書 pp. 197～233 を読み、本章の目的について把握しておく。
		事後学習	既習内容を復習し、メディアによる文化受容やメディアを使用した異文化コミュニケーション・異文化交流について理解したことをノートにまとめておく。
第13回	第10章 マルチリンガルな世界における異文化コミュニケーション	事前学習	教科書 pp. 197～233 を読み、本章の目的について把握しておく。
		事後学習	既習内容を復習し、メディアによる文化受容やメディアを使用した異文化コミュニケーション・異文化交流について理解したことをノートにまとめておく。
第14回	第11章。 異文化コミュニケーションの未来	事前学習	教科書 pp. 234～243 を読み、本章の目的について把握しておく。
		事後学習	既習内容を復習し、異文化理解に必要な要因について実際の異文化交流の体験から学んだことを含め全体的に整理しておく。
第15回	第11章。 異文化コミュニケーションの未来	事前学習	教科書 pp. 234～243 を読み、本章の目的について把握しておく。
		事後学習	異文化コミュニケーションの未来についてクラスメートと共有した意見を基に、今後について考えを巡らす。